

（１）大学・学科の設置理念

①大学

大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るため、教育、福祉、医療、環境、産業経済、科学技術などに関する教育・研究の充実を図り、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

理工学研究科では、質の高い特色ある研究を通じて、不確実な時代においても世界に通用する科学技術を創造し、より良いかつ持続可能な社会と地域の形成に貢献すると共に、豊かな創造性、社会性及び人間性を備え、以下のような能力を有する人材を養成し、地域や社会へ貢献することを理念とする。

1. 専門分野における高度な知識を深化させて、その展開力を強化し、理工学の視点から複雑化する社会の諸問題に対して、情報やデータを分析し、論理的な思考と批判的な視点をもって、学際的かつ創造的に取り組むことができる。
2. 研究の目的、方法やスケジュールを明確に計画し、倫理、知的財産権、著作権などの規範に基づき研究を遂行し、研究に係る情報や結果を適切に管理・活用できる。
3. 多様性を尊重し、グローバルな視点を持ちながら課題解決のために高度な論理的思考力と協働を重視したコミュニケーション力のもと、率先して持続可能な社会とイノベーションの創造・創出に意欲的・積極的に参画できる。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

大分大学は教員養成分野に関する地域活性化の中核的拠点として、大分県の教員養成の中心的役割を担うとともに、教育研究や社会貢献活動等を通じて大分県の教育の発展・向上に寄与することを大きな柱とし、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた「実践型教員」の育成に取り組む。

教員養成は、本学の使命を具現化する最も重要かつ具体的な人材育成の柱の一つと位置付ける。具体的には、養成すべき教員像を以下のように設定する。

1. 社会からの尊敬・信頼を受ける教員
2. 確かな実践的指導力を有する教員
3. 新たな学びを展開できる実践的指導力を有する教員
4. 学校の教育力を支えることができる教員

本学では、これらの必要とされる資質能力を有機的に関連させた教員養成に取り組み、地域の基幹大学としての使命を果たすことを目指す。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【理工学研究科理工学専攻】

理工学研究科理工学専攻では、理工学部からの延長上としての理工融合教育と専門教育の連携した教育体制のもと、高度で学際的な教養を修得するための共通の導入科目、学内連携や研

究面での連携，多様な視点からの分野横断的な課題解決能力を醸成するためのプロブレムベースドラニングの導入を行い，実践的な問題解決能力の向上，イノベーション力の強化，研究力の強化を行う。

理工学の基礎を広く学び俯瞰的知識を身につけるとともに，目的指向の分野横断型課題の発見，探求，解決する意欲と意思をもち，理工学を統合的にとらえ柔軟な考え方ができる教員養成を目指す。これに対応するために，各分野の教員を配置している。また，研究成果，応用技術や業界のニーズに即した教育を提供でき，アクティブラーニングの実践力を有し，コミュニケーション能力やリーダーシップ等，教育者として必要なスキルをバランスよく身に着けた教員養成を目標とする。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【理工学研究科理工学専攻】

科学技術が高度に発展している現代において，最先端の研究に関わる上で必要な，広い視野と柔軟な思考力を養うためのカリキュラムを本専攻では準備している。今回認定を受けようとする教職課程で培われるべき能力は，中学校及び高等学校における理数教育に携わる教員ならびに高等学校における情報・工業の教育に携わる教員に求められる信頼ある実践的指導力に欠かせない重要な要素である。これを基礎として以下のような主旨の下，理工学の学問体系に縛られない柔軟な考え方のできる人材を育成する。

・中学校教諭専修免許状（数学）

中学校教員には，生徒が理系の分野の勉学を積極的に進めていくことに繋がるように，数学本来の魅力を生徒に伝える能力が必要である。更に科学技術が将来の繁栄を左右する現代社会において，数学を通して養われる論理的思考力・発想力は将来の進路にかかわらず必要とされる。情報・数理・データサイエンスプログラム（数理系）では，深い専門教育と，幅広い他分野との関係を学ぶためのカリキュラムを準備している。深い専門性は基礎的な概念や性質をそれが生まれてきた背景まで含めて生徒に分かりやすく伝えるために必要であり，それらを個々の生徒ごとの興味や状況に合わせて伝えるためには幅広い他分野との関連を理解する必要がある。数学の中学校教諭専修免許が取得できる教職課程を設置することで，このような意味で生徒に伝える数学と正面から向き合っていける人材を養成する。

・高等学校教諭専修免許状（数学）

高等学校教員には，学問としての数学を生徒に体系的に理解させるとともに，社会や技術への応用力を高めさせる能力が必要である。更に高等学校教育は生徒の進路を左右する重大な役割をもっていることから，デジタル革命が進行する現代社会においてこれを担う人材は，専攻分野の最先端の課題に対してグローバルな視点が必要とされる。情報・数理・データサイエンスプログラム（数理系）では，専門性を深めるカリキュラムに加えて分野間の共創に基づく応用を意識したカリキュラムを用意している。これにより，数学の専門性を究めるという立場にありながらも，社会が求める数学とも向き合う能力が培われる。数学の高等学校専修免許が取得できる教育課程を設置することで，数理的計算，データサイエンス及び知識に基づく理解力と論理的な思考に基づく展開力を兼ね備えた人材を養成する。

・中学校教諭専修免許状（理科）

中学校教員には自然科学全般にわたる基礎と具体的な展開や理工学への応用を理解した上で、現代社会と科学との関連について多面的に伝えられるコミュニケーション能力と、先端的な研究課題にも取り組んだ経験を土台とした実践的指導力を身につけることが必要である。地域デザイン・建築学プログラムにおけるカリキュラムでは、理工学，自然科学分野の多様な関連科目に加えて，他分野や理工学連携・基礎科目群の専門科目などから履修するなかで，新たな学びへ展開できる力を育成する。これによって，生徒に教科書の背景となる内容や，幅広い自然科学の魅力をわかりやすく伝えることのできる多面的な能力を備えることが可能となる。理科の中学校教諭専修免許が取得できる教職課程を設置することで，この多面的な能力や，研究経験や情報リテラシー教育を背景として学び続ける能力を備えた教員を養成する。

・高等学校教諭専修免許状（理科）

高等学校教員には自然科学全般に関する知識を基盤として，専門的な見地からの最新科学への理解を深め，分野横断的な教育により科学や先端技術における統合的考え方や高度な知見を身につけ，自主的に先端的な研究課題に取り組める能力が高等学校の教員には必要である。応用化学プログラムならびに地域デザイン・建築学プログラムにおけるカリキュラムでは，理工学，自然科学分野の多様な関連科目に加えて，他分野や理工学連携・基礎科目群の専門科目などから履修するなかで，探究的な学びへと展開できる力を育成する。これによって，高等学校理科の教科書レベルを越えた自然界への展望と応用力を備えることが可能となる。理科の高等学校教諭専修免許が取得できる教職課程を設置することで，アクティブラーニングの実践力を有し自然科学の深い魅力を伝えることのできる総合的な能力や，研究経験や情報リテラシー教育から得られる，学び続ける能力を備えた教員を養成する。

・高等学校教諭専修免許課程（情報）

情報・数理・データサイエンスプログラム（高度実践系，情報系）の学生が，急速に発展し続けている知能情報システム工学分野に関する広く深い専門知識を修得し，かつ分野横断的な考え方を生かして新たな技術を生み出すことができ，課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付ける総合的な教育力をもった専修（情報）の教員養成を行う。また，アクティブラーニングの実践力を有し知能情報システム工学の深淵な魅力を伝えることのできる総合的な能力や，研究経験や情報リテラシー教育から得られる，学び続ける能力を備えた教員を養成する。

・高等学校教諭専修免許課程（工業）

先進機械システムプログラム，物理・電気電子プログラム，地域デザイン・建築学プログラムの学生が，各々の分野に関する深い専門知識を修得し，かつ分野横断的な考え方を生かして新たな技術を生み出すことができ，課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付ける総合的な教育力をもった専修（工業）の教員養成を行う。また，アクティブラーニングの実践力を有し各専門分野の深淵な魅力を伝えることのできる総合的な能力や，研究経験や情報リテラシー教育から得られる，学び続ける能力を備えた教員を養成する。

様式第 7 号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	大分大学教員養成カリキュラム委員会
目 的：	教職課程の運営及び教職指導を全学的に検討するため、次の事項を審議する。 (審議事項) (1) 教員養成カリキュラムの編成に関すること。 (2) 教職課程の改善・充実に関すること。 (3) 教育実習の改善・充実に関すること。 (4) 教職指導の改善・充実に関すること。 (5) その他教職課程に関すること。
責 任 者：	理事（教育担当）
構成員（役職・人数）：	学長が指名する理事 学長が指名する学長特命補佐 学長が指名する学長補佐 各学部の教務委員長 その他委員長が必要と認めた者
運営方法：	全学的な教育課程の運営・調整は、教員養成カリキュラム委員会が行い、その事務は、学生支援部教育支援課が担当する。委員会は、委員の過半数の出席で成立し、議決は多数決による。可否同数の場合は、委員長の決するところによる。 委員会の方針・決定事項は、各学部・研究科の教務委員会等を通して実施される。

②

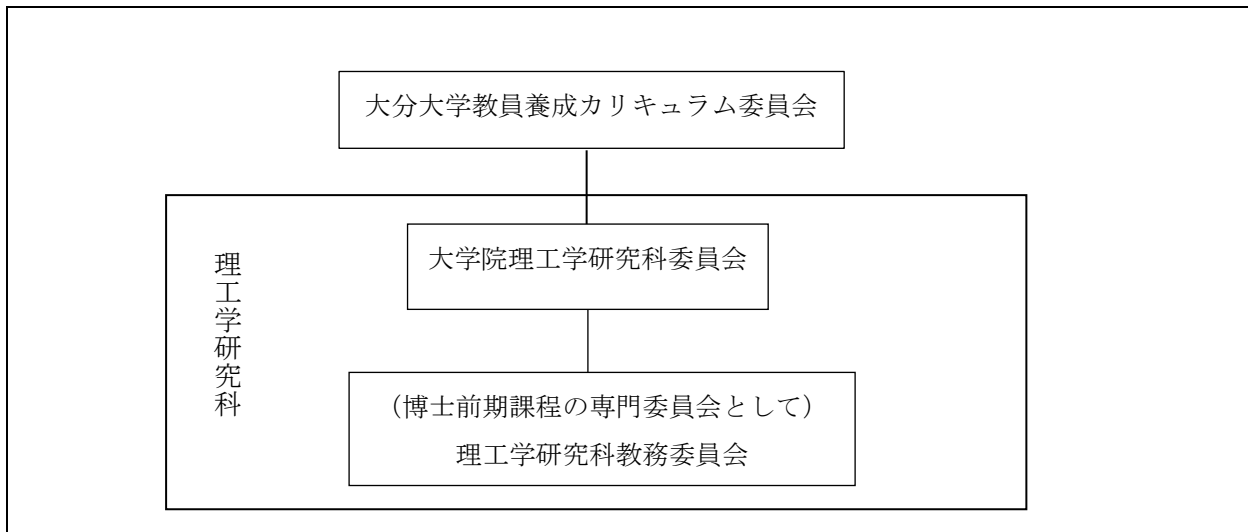
組織名称：	大学院理工学研究科委員会
目 的：	教育研究の審議機関として、理工学研究科長が司る教育研究に関する事項について審議する。
責 任 者：	理工学研究科長
構成員（役職・人数）：	理工学研究科長 研究科の研究指導を担当する教授又は准教授 研究科の研究指導の補助を担当する教員のうち、研究科委員会が必要と認める者
運営方法：	毎月 1 回開催、委員の過半数の出席により以下の事項を審議する。 (1) 教務、学生及び入試に関する事項 (2) 教職課程に関する事項 (3) 学術・研究に関する事項 (4) 規則の制定改廃に関する事項 (5) 大学院担当教員の資格審査に関する事項 (6) その他研究科長が必要と認める事項

様式第7号イ

③

組織名称：	大学院理工学研究科博士前期課程教務委員会
目的：	理工学研究科博士前期課程の専門委員会として教務に関する専門的事項を審議する。
責任者：	教務委員長
構成員（役職・人数）：	教務委員長 副教務委員長 各プログラムの基礎となる各分野の教員から選出されたもの9名 その他研究科長が必要と認める者
運営方法：	毎月1回開催，以下の事項を審議する。 (1) 教育課程表の編成，評価，改善及び自己点検に関すること。 (2) 学生の休学及び復学に関すること。 (3) 研究生及び科目等履修生の受入れに関すること。 (4) 長期履修生に関すること。 (5) 他機関で取得した単位の認定に関すること。 (6) 臨時休業に関すること。 (7) 非常勤講師の配置計画に関すること。 (8) 教職プログラムの編成に関すること。 (9) その他教務事項に関し必要な事項

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 特になし

連携先との調整方法：

具体的な内容：

Ⅲ. 教職指導の状況

入学時のガイダンスにおいて、一種免許状取得済み及び未取得の者に対し、博士前期課程における教職課程及び専修免許状取得のための単位修得方法について説明し、履修期間中においても事務部において各種の履修相談に随時応じている。